

県立高校改革（I期）指定校事業 実施報告書 （平成30年度）

学校名	七里ガ浜 高等学校（全）	校長名	内藤 通昭
指定事業	授業力向上推進重点校		
研究主題	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすことを目的にした組織的な授業改善により、学校全体の授業力を向上させることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、学習に対する関心・意欲を高め、生徒の自己実現に資する学力の向上を図る。		
3年間の目標	<p>○すべての授業を「脳働学習」と位置づけ、生徒の深い思考力、的確な判断力及び豊かな表現力を育む学習を展開する。</p> <p>○教職員が学習指導力を高めるだけでなく、生徒自身が学習に取り組む力を向上させることで、教職員も生徒も学び合う学習共空間を醸成する。</p> <p>○生徒会行事や部活動等の生徒の自主活動を学習活動の基盤と位置づけ、主体的に活動する姿勢や困難や逆境に打ち勝つ精神力、チームで働くことや他者に対する寛容さなどを身につけさせる。</p>		
本年度の研究内容	<p>(1) 目標</p> <p>①各教科・科目においての実践目標である生徒の主体的な学びに係る単元指導のノウハウおよび授業改善の連続した取り組みの研究を「七高スタンダード」としてとりまとめ、全職員での共有を図る。</p> <p>②授業力向上の取り組みとしての「七高スタンダード」を全県へ発信し、共有を図る。</p> <p>(2) 実施内容（具体的に）</p> <p>○研究授業と協議等の共有について</p> <p>今年度は、単元の中で「考察し、表現する」内容を授業で実施することを目標とし、年2回の公開研究授業および3週間の授業見学週間を設定した。</p> <p>6月の第1回研究授業では、授業実施者の学習指導案について教科で事前協議を行い、単元での授業の位置づけと生徒に身につけさせたい力や学習指導の工夫点を学習指導案に記入させることとした。また、研究授業の見学は教科にとらわれず見学・事後協議を行うこととした。事後協議では、見学授業において参考になった点や、自身の授業に取り込みたい点等を中心に協議を行い、授業実施者への意見のフィードバックを適切に行えるようにした。特に、協議におけるグラウンドルールを定め、批判的な意見よりも建設的な前向きな意見を引き出せるような協議を行った。なお、協議内容については意見を付箋に張りださせる形式をとったため、協議内容の保存や再度の閲覧に有効であった。</p> <p>9月から10月にかけて授業見学期間を3週間設定し、自教科を1回、他教科を1回、計2回の授業見学を行い、見学シートの提出を各教員に求めた。なお、授業見学でのシートは授業担当者へのアドバイスとして活用を依頼した。</p> <p>11月の第2回研究授業では、外部から他校種の教員も招き、教科ごとでの研究を中心に実施を行った。事前協議では1学期の生徒による授業評価の結果を踏まえて教科会で改善点を洗い出してもらい、改善点への取り組みを意識した研究授業を設定してもらった。事後協議は第一回目と同様に授業実施者へのフィードバックを主眼とし、外部からの授業見学者を交えて各教科内で深い協議を実施してもらった。</p> <p>○生徒による授業評価に関して</p> <p>昨年度に質問内容を見直した生徒からの授業評価を活用し、年2回、教員に実行性のあるフィードバックを行い授業改善に活用した。各教科と教員には授業評価を活用した授業改善に取り組むよう促した。前述した授業見学および研究協議において、主体的な学びに係る授業への参考として授業評価を活用してもらい、協議の参考としてもらった。なお、連続した授業改善への取り組みとなるようなRPDCAサイクルの設定においても授業評価を意識してもらい、授業の振り返りシート・目標設定シートの作成を行った。</p>		

	<p>○教員による研究成果発表会および生徒による学習発表会の運営と発表を行い、地区での情報の共有を図った。</p> <p>○三年間の授業力向上の取り組みをまとめた冊子を作製した。(平成31年4月配布予定)</p> <p><b>(3) 検証方法と検証結果</b></p> <p>○生徒による授業評価の結果について(特に深い学びについて)</p> <p>昨年同様、生徒による授業評価の結果について、1学期の学校全体の評価と2学期の評価を比較した。全体評価をまとめて比較をしたが、大きな差異は出なかった。昨年同様、授業内容や授業の進め方に75%~80%の生徒が肯定的意見を回答しているが、1学期と2学期で変化は1%程度にとどまっており、授業改善を進めた結果が、評価結果に反映しきれていないことがわかる。各教科の特性もあるため、全体をまとめた結果が大きく変化するかは不明な点が多いが、授業評価の活用方法の検討も含めて、今後の授業改善に向けた課題となると思われる。</p> <p>以下授業力にかかる項目(抜粋)での肯定的意見(評価4・評価3の合計パーセント)</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒主体の授業の工夫</td> <td>1学期</td> <td>78%</td> <td>→</td> <td>2学期</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>授業の進め方</td> <td>1学期</td> <td>80%</td> <td>→</td> <td>2学期</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>授業の充実感</td> <td>1学期</td> <td>76%</td> <td>→</td> <td>2学期</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>説明のわかりやすさ</td> <td>1学期</td> <td>79%</td> <td>→</td> <td>2学期</td> <td>80%</td> </tr> </table> <p>○教員による研究成果発表会及び生徒による学習成果発表会の開催</p> <p>12月26日の地区成果発表会では、これまで授業力向上として取り組んだことの総括を研究成果発表会にて報告を行った。</p>	生徒主体の授業の工夫	1学期	78%	→	2学期	80%	授業の進め方	1学期	80%	→	2学期	81%	授業の充実感	1学期	76%	→	2学期	77%	説明のわかりやすさ	1学期	79%	→	2学期	80%
生徒主体の授業の工夫	1学期	78%	→	2学期	80%																				
授業の進め方	1学期	80%	→	2学期	81%																				
授業の充実感	1学期	76%	→	2学期	77%																				
説明のわかりやすさ	1学期	79%	→	2学期	80%																				
<p>研究の まとめ</p>	<p><b>(1) 成果</b></p> <p>○3年間を通じて、生徒の考える力や生徒が発表する力、生徒同士で協力する力を伸ばすための要素を授業内に意識をして取り込むよう、各教員が工夫をするようになったと考えられる。1・2年目は実験的手法で生徒へのアプローチをクローズアップしていたが、3年目は組織的な授業改善を意識し、様々な教員がそれぞれの授業への改善を加えるための働きかけを模索できたかと考えている。授業改善を継続性のあるものとするための情報提供の手段として、協議内容の工夫や、授業見学でのシート作成、教科会での課題設定の具体化ができたかと思う。今後は授業改善の手法についても継続して改善していくことが目的となると考えられる。</p> <p><b>(2) 課題(次年度に向けての方向性を含む)</b></p> <p>○今後も、生徒の主体的な学習、「思考力」・「判断力」・「表現力」の育成への取り組みを踏まえた、継続性のある組織的な授業改善の定着が必要であり、そのための授業改善のシステム化が課題である。特に、異動教員の増加に対応するよう、スムーズな授業改善サイクルへの導入が必要となる。また、組織的対応、特に教科会における学習計画の具体的な実施等、チームでの授業改善がさらに必要と考えている。</p> <p>○また、昨年同様、授業の中には依然として生徒が学ばさせられている状態が強く、自発的な学習、表現する学習への移行がまだ強くされていない状態である。学ばさせられる「受身の状態(passive)」から、主体的に自ら学ぶという「自発の状態(active)」への変化を意識した授業改善を考えていく必要がある。</p>																								
<p>その他 特記事項</p>	<p>特になし</p>																								